

1、タイトル：「GLOBAL EYES」 ～私達のこれからのために～

2、授業者：橋本 太広（京都府 亀岡市立 育親中学校）

3、教科：英語・生徒会活動

4、対象学年：中学校3年 約100名

5、カリキュラム案

(1) 実践の目的

①身近な国に目を向ける機会を設ける

英語教科書で身近なアジアの国をテーマに取り上げ、国際ボランティアに目を向ける設定になっている。現実、中学生にとって海外でのニュースは遠い存在であり、情報そのものに目を向ける機会が少ない。従って教師が情報発信元となり、考えるチャンスを与えていきたい。その中で深く興味を持った生徒にはより深く知る機会を与え、少しでも将来、海外で活躍する人材を育てたい。

②自分達の生活と世界の課題をリンクさせる

年間の国際理解学習の大きなトピックスの一つとして授業実践者が JICA 研修旅行を通じて学んだ「マレーシア文化と問題」というテーマに対して、現代の世界が抱える問題を①環境問題②人種間問題③国の経済格差④本当の海外協力という4つの視点の下に、生徒たちに考えさせたい。特にパーム油問題は自分達の暮らしと直結する問題でもあり、理想的な社会像を考えさせていきたい。

(2) 授業案の構成（国際理解学習として）

学期	時限	方法	教材・資料
1学期	1限	Unit4を国際理解学習として「地球が100人の村だったら」ビデオ視聴	ビデオ教材
	2限	JICAってなんだろう？ 青年海外協力隊とは？ 自分達でできる海外協力とは？	JICA、青年海外協力隊 資料（道徳教本、ビデオ） インターネット資料
	3限	JICA エッセイコンテスト作文応募	コンテスト資料 作文用紙
夏休み		「亀岡市国際交流フェスティバル」に9名参加 ・ネパール・バングラディッシュの国調べ発表 ・国際ボランティアの種類・方法発表	国調べ紹介資料 パワーポイント
2学期	4限	「マレーシア学習」 アジアビンゴゲーム マレーシアクイズ ダカット村紹介～自然との共存～	ビンゴシート マレーシアグッズ パワーポイント ハンドアウト

	5 限	パーム油問題について学ぶ ビデオ視聴「我ら地球船号」 資料を使って問題提起 「本当の国際理解とは？」	パワーポイント ハンドアウト ビデオ 感想用紙
3 学期	6 限	海外留学生による講演会（現在計画中） ネパールが抱える課題と日本の国際的な役割 について	講演会資料

各授業の概要と評価・生徒の反応

1 限目

内容：「地球が 100 人の村だったら」を鑑賞する

評価：自分たちと同じような年齢の子供が全く違う苛酷な環境の中で一生懸命に「生きる」姿に色んな角度から自分と比較してみる。

結果・反応

民放で放送された児童労働問題についてのビデオを鑑賞させた。英語の教科書でネパールについては出てきていることもあり、より近い感覚で捉えることを目的とした。貧富の差、過酷な労働に立ち向かいながらも、自分の夢は「家族と暮らすこと」という一言に生徒たちは心を打たれていたように思える。

2 限目

内容：「青年海外協力隊」「JICA」の活動を知る。

評価：国際貢献活動の役割を知り、自分たちが今できることについて考えさせる。

結果・反応

道徳の教科書にある「貧しさの中で～ネパール～」(JICA 三浦朱門氏監修)を取り上げ、自分たちだけが裕福感、幸福感を味わうだけでいいのか？人として何ができるのか？を考える機会にした。また事前に JICA で青年海外協力隊についてのビデオを借りておき、具体例として見せることができた。昨年度、本校出身の海外協力隊 OB に講演会を開いてもらったこともあり、興味を持って聞くことができたように思える。またその後一部の生徒にインターネットを通じてどのような国際ボランティアの方法があるのか調べさせた。物資集めも考える中でやはり送料、輸送方法に課題が残り結論として 2 学期に入って募金活動を行った。

3 限目

内容：「JICA エッセイコンテスト応募」(資料 1)

評価：学習した内容、考えたことを自分の言葉で文章化し整理する。

結果・反応

エッセイコンテストは文章化のモチベーション作りに役立った。また資料を通じて新しい発見もあり、それぞれが自分たちの理想を考える機会となった。

4 限目（資料 2）

内容：「マレーシア文化を知る・自然を自然として受け入れる暮らし」

評価：アメリカ文化を中心に海外情報を感じる現実がある。身近なアジアの国に目を向けさせ、文化理解や現状・課題を発見させる。

結果・反応

- ・ アジアビンゴー頑張って考えていたが、なかなか国名が 16 マスに埋まらない生徒が多かった。中にはアフリカ、南米の国を書く者もいた。
- ・ マレーシアクイズー国旗・3 民族共存・イスラム文化・お金・生活習慣・生活グッズについてパワーポイントを使ってクイズをした。宗教文化や食事やトイレの生活習慣の違いに興味を持っていた。
- ・ ダカット村紹介ージャングル雰囲気には驚き、また自然を特別視するのではなく、自然を自然として自分たちの暮らしに当たり前に取り入れている環境生活に興味を持つものの、「自分たちには絶対できない」と話すものが多かった。しかし中には「いつてみたい」「そんな生活がしてみたい」という生徒もいた。

5 限目（資料 3）

内容：「パーム油がもたらす様々な問題を考えるあい。また真の国際理解について考える。」

評価：「環境問題」という言葉自体は、ほぼ全員の生徒が知っている。しかし、スケールの大きなテーマであり、自分たちの現実生活と結びつけることは難しい。身近に使用しているパーム油の存在を知り、その裏で起こっている様々な問題を知ることで、自分たちのこれからの理想社会を考える。

結果・反応

- ・ ビデオ鑑賞ー「我ら地球船号」を視聴。自分たちが日ごろ普通に使っているパーム油を作るために多くの森が失われ、プランテーションの弊害がボルネオ象に過酷な生活環境を与えている現実を知り、決して遠い問題ではないことを感じた。「植物性油脂」という言葉は知っていても「パームオイル」という言葉を知るものは少なく、情報の大切さを考える場面にもなった。
- ・ パワーポイント・ハンドアウトー授業者が実際に見た現状を話しながら、自分が考えたことを伝えた。その中で出会った素敵な先生、坪内先生を紹介しながら、彼の言葉をみんなに伝えた。数人の生徒が授業後にやってきて「物を集めるだけではだめなんやな」といっていたのが印象に残る。
- ・ 感想ー時間的に 5 分程度しか残らず、もう少し書かせたかった。しかし自分の思いを短いながらも整理することができた。

6 限目ー現在講演会の準備中。昨年度の講演に引き続くものにしたい。

